



内閣府特命担当大臣

岸田文雄

このたび、沖縄を担当する内閣府特命担当大臣に再び就任いたしました。担当大臣として、沖縄の持つ魅力を最大限に引き出すことを基本として、また県民の皆様が大変大きな基地負担を負っていることを踏まえて、全力で課題に取り組んでまいります。

9月に、大臣就任後初めて沖縄を訪問した際には、仲井眞知事をはじめ、沖縄の各界関係者の方々とお会いし、沖縄の諸課題について意見交換をさせていただくとともに、国立沖縄戦没者墓苑の参拝・献花等をさせていただきました。先の沖縄戦において、県民の皆様が尊い命を失われ、悲しい、つらい経験を経験されたことを、改めて深く感じ

ました。私も地元広島で被爆体験を身近に見聞きしており、先の大戦における悲惨な出来事に関する思いについては、沖縄の皆様方と通ずるものがあると考えております。また、普天間飛行場を視察し、改めて基地負担の軽減に向け努力しなければならぬと実感しました。

私は現場を大切にして仕事をしたいと考えており、実際に現場に足を運び、地元の方々とお会いし、信頼関係を醸成していくとともに、体で多くの事柄を感じ、地元の思いを施策に反映できるよう努めてまいります。9月7日の閣僚懇談会においても、沖縄を訪問した際の地元の思いを関係閣僚にご報告したところです。

こうした中で、9月29日には、教科書検定意見撤回を求める大規模な県民大会が開かれ、その後、仲井眞知事、仲里県議会議長（県民大会実行委員長）等から直接ご要請をいただきました。教科書検定は私の所管ではありませんが、今回の大会は、県民の皆様の思いがいかに大きく深いものであるかを示すものであり、丁寧に誠意を持って受け止めなければなりません。こうした私の考えは渡海文部科学大臣にもお伝えしました。

## Greeting

# 就任のご挨拶

沖縄が本土に復帰して、今年で35年になります。社会資本整備面を中心に本土との格差が縮小し、観光や情報通信産業の振興等においても、成果を上げてきておりますが、県民一人当たりの所得の低さ、失業率の高さ等課題も多々あります。本年3月に取りまとめられた沖縄振興計画の後期展望を踏まえ、また、地方再生の取組にも配慮しつつ、仲井眞知事とも連携協力しながら、地元自治体と一体となって、自立型経済の構築に向け、一層努力いたします。

具体的には、観光業については、好調に推移していますが、観光客1人当たりの消費額が伸び悩んでいるといった課題等もあります。引き続き、すばらしい自然など、沖縄の優位性をアピールし、通年型・滞在型の観光・リゾート地形成を進めてまいります。また、情報通信産業については、高度人材の育成や高度ソフトウェア開発等、より付加価値の高い分野の振興等を進め、アジア最先端の高度情報通信産業の集積を目指します。さらに、国際性豊かな人材の育成や若手経営者の育成等、沖縄の将来を担う人材の育成に取り組みます。

沖縄科学技術大学院大学設立構想については、（独）沖縄科学技

術研究基盤整備機構において先行的研究事業、施設整備等に取り組んでいるところです。今年度中には、恩納キャンパスのセンター棟・第一研究棟建設に着手する予定であり、世界最高水準の大学院大学の設立に向け、より一層取組を進めてまいります。

さらには、メリハリのある社会資本整備を着実に進めるとともに、各種産業の一層の振興や、離島振興、科学技術振興等に取り組みます。

また、沖縄に在日米軍施設・区域の多くが集中し、県民の皆様に大きな負担をお掛けしています。普天間飛行場の移設・返還を始めとする在日米軍施設・区域の整理・統合・縮小については、地元の意向をよく伺い、沖縄を担当する大臣として、沖縄との橋渡し役を務めていくとともに、跡地対策、北部振興等についても、地元の要望を踏まえながら着実に推進してまいります。

私は、進取の精神を持って前向きに、現場の声を大切にしながら、スピード重視で臨み、また誰にでも分かり易くを旨として業務に取り組んでおります。現場の最前線に立つ皆様にも、是非、沖縄の更なる発展に向けて積極的に業務に励んでいただきたいと思います。